



PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

父親にも影響を与える

男性の感情

中絶をするかしないかの話し合いの時、男性は相談されないと腹を立てると臨床経験から分かっている。相談されなければ、彼はだまされ、あやつられたと思うようである。その結果として生じる激怒は、本当は自分の無力さから来る挫折であり、何も出来ない立場から生じるものである。

中絶問題が持ち上がる時、男性は無力感を味わうが、その激怒を表には表さない。なぜなら彼は、どのように怒りを安全にあらわしたら良いかを教わっていないからである。中絶の判断の時さえ、彼には何も言う権利が無いという認識が彼が怒る権利もないと信じ込ませるのである。

しかし、中絶される子供の父親としての怒りを黙っていないで表す必要がある。

たとえ、中絶の時点で父親が怒りと挫折を表に表さなくても、結局、彼は後にその感情を味わう事になる。

自分の子どもを中絶してから何週間、何カ月または何年か後に、彼は他の家庭の中絶に対しての挫折に怒っている自分に気がつく。その行動はその人の経験にかわって、彼が怒っているように見えるが、実際には彼は過去に自分の表せなかった怒りを振りまいているのである。

相手への影響

中絶した結果、男性達が経験する気持ちは、子ども

の母親との関係に影響を及ぼす。中絶経験のある四百組以上のカップルから聞いた所、70%の組が中絶を受けた後一ヶ月もたずに彼らの関係は壊れてしまったとある調査報告に述べられている。第二調査で、中絶手術を受けてからだいぶ経つ72人の男性に聞くと、そのうちの25%の男性は中絶した事によって、自分達の関係が終わってしまったたと中絶を非難している。

そして、一度またはそれ以上中絶手術を受けた事のある30人の女性にインタビューをしたところ、46%はそれが原因でその男性との付き合いが終わってしまったと言っている。

結婚している組の場合においてさえ、もし中絶に対しての意見が合わなければ、彼らの関係は不誠実と拒絶で埋め尽くされ、夫婦間での意思決定の時、どちらか一方が強すぎるよ

うになる。又、中絶について話さないようになるかもしれない。そういう事は彼らがこれから共に築いていく未来の根底に起こってくる事である。年月が過ぎていき、苦しさは双方に増していく。

潜在意識の中で、女性は自分に次のように尋ねる。なんて男なのだろう。自分の子どもを中絶させるなんて。そして、同時に彼も自問する。どうしておれは自分の子どもを殺すような女と結婚してしまったのだろう。

そして、彼らの結婚生活は、中絶を受ける前に楽しんだ親密さと正直さが欠けてしまう。中絶は二人の間に空虚感をつくり、その空虚感は二度と直せないものとなる。

HWRFA

中絶が父親にもたらすもの

中絶がもたらす影響
この問題は母親について
は多くの分野にわたって

様々な研究がなされてい
ますが、父親については医
学的にも法的にも、また心
理学的にも無視されてい
ると言える。中絶問題のこ
の忘れられている側面、
男性の立場について考え
てみましょう。

社会では一般的に男は
積極的で責任感があり、女
性に対して支配的である
ことが期待されているが、
中絶が引き金となってこ
のような男としての役割
が崩壊し、心配やストレ
ス、感情的な混乱を引き起
こす。社会的に男性が父親
として積極的な役割を果
たすことが受け入れられ
ているだけでなく期待さ
れる傾向にあるにもかか
わらず、中絶に関しては男
性が自分の子供の生死に

関わる決定力がないのは
皮肉と言えるでしょう。

まだ多くの国では、中絶
に関して、父親はごく限ら
れた権利しか所有せず、夫
としては全く権利を所有
しない」とされている。そ
こで男の持つ自己概念は
破壊され、積極的で支配的
で自発的なはずの男性が、
消極的で弱々しく頼りな
い人間へと変えられてし
まう。中絶を経験したある
父親はこう言っている。

「自分の子供の生命を救え
なかつたなんて、胸が痛
む。この心の傷は一生残る
だろう」と。メリーランド
カウンセリングセンター
大学の心理学者である
アーノルド・メドオフィン
氏は、中絶は男性に一つの
死の経験を与え、重大で非
常に基本的な問題や記憶、
感情を呼び起こす」とい
う。「中絶の残す心の傷は

決して目に見えるもので
はないが確実に存在する」
という男性もいる。

だいたい男というもの
は、本人がそれに気付くか
どうかはともかく、妻や
ガールフレンドが妊娠し
ていると知ったその瞬間
からすでに違う人間とな
る。男は父親としての役割
を思い、終始子供のことを
考えるようになる。その子
の父親として中絶に賛成
する反対するに関わらず、
お腹の中の胎児を人間と
みるか単なる細胞組織の
塊とみるかに関わらず、中
絶は一つの生命を断つと
いう事実には気付いてい
るのです。

中絶のもたらす心理學
的な影響は、最初に述べた
男性の伝統的な役割が破
壊されることに密接に関
係し、また多くの場合それ
故に起こる。男は自分の愛

するものを守るだけでな
く、女性が自分を必要とし
ている時、多くの場合自分
の意見や感情を抑えて自
分を犠牲にする。中絶に関
する決定は内密にされる
ことが多く、当事者同志で
さえも話し合わないこと
がある。このように、男性
は自分の本当の気持ちを
相手や家族、親しい友人に
さえも話すことができな
いことから深い心理學的
な影響が引き起こされる
のです。多くの男性が訴え
ている感情の症状に、憂鬱
やイライラ、虚脱感、罪悪
感などがあります。

このような中絶が引き
起こすストレス群は、相手
との人間関係に亀裂を生
じさせます。自分たちの関
係を物理的に明白に証明
する愛の結晶である赤ん
坊を中絶すると決めた女
性の気持ち、自分に対す
る拒絶の気持ちの現れだ
と解釈する男性たちもい
る。相手から拒絶されたと

いう気持ちの原因となっ
て、性的に不能となつた
り、複数の相手との性的行
為に走ったり様々な性的
問題が起こってくる。多く
の場合、罪の意識や心配、
良心の呵責が大きすぎて
耐え難くなり、相手との関
係を終わらせることで解
決するという状況も起こ
る。

ここで一つのケースを
紹介しよう。未婚のカップ
ルが妊娠した。男は相手の
女性から中絶するのが一
番良い方法だと強く説得
され、いやいやながらその
意見に従った。彼らは後に
結婚することになり、二人
の子どもが生まれたが、妻
は夫があの中絶以来変
わってしまったと言う。妻
とのセックスにもはや関
心を示さなくなり、それば
かりか汚いことばで罵り、
二人の子どもに対しては
体罰など虐待するように
なった。専門家による治療
を受けることも考えたが

夫はこれを拒否し、彼らは今離婚を考えている。

ここではつきり言える事は、男性たちも胎児と同様、中絶の犠牲者、陰に隠れた犠牲者である。彼らは専門家の治療を受ける事が先ず必要である。中絶の経験から起こる否定的な感情や心配を独りで内に秘めてしまわず、正直に解放的に話し合う事である。罪悪感や怒りの気持ちを確認する事は確かに辛い、そうする事が結局は自身を赦すことにつながっていくのである。

HILL-Report '92

ぞつとつする話

「これこそ真のホラーストーリー」「狂気のトンネルだ」「これらはロバート・ステイルマンのニユースを聞いて専門医達が発した言葉だ。ステイルマンはジョージワシントン大人工受精センターの医師で、研究所で人間の胎芽を再現、つまりクローンを作ったという。

クローンとは人工再現による複製の事で、野菜や動物の領域では既に実験済みである。やり方はさして難しくないが、さすがに人間で試してみようとすると人はこれまでいなかった。ロバート・ステイルマンはあらゆる法的障害と戦い、実験を規制してきた医学倫理の慣例を破つてまでも、クローン実験を試みた第一人者だ。どんな理由でこの衝撃的で大掛か

りな実験に挑んだとしても彼の本質的に邪悪な決心が正当化される事はない。不妊に悩む夫婦に子どもを授けるといふ理由だけでは、人間の尊厳に反していて良心がとがめる実験を正当化するには不十分だ。

クローン胎芽を用いる臓器移植という忌まわしい実験や、冷凍貯蔵庫から胎芽を選別して子どもをつくる行為の展望について語るべき事などあるだろうか？

医学のみならず他の分野でも常に生じる問題だが、よい目的や有益な結果をめざす事が必ずしも人道的行為の基準とはなり得ない。遺伝子工学は人間性や種の再現に貢献する目的の科学である。しかし人間である事、つまり人としての尊厳と権利を所有するために、遺伝子工学は遺伝性の欠陥やその他起こりうる障害を取り除く

事で生命の質を向上しようとするとする。

遺伝子工学がこの領域を越え、人間の卓越性や尊厳に基づく倫理・法的規制を無視したり、人権を侵害するようになれば、とたんにゆるしがたい学問と化する。その意味でも、立法に携わる人々は、法律で明確に規制を定める義務がある。科学の研究を止めさせるためではなく、狂気のトンネルに踏み込んだり、人間性を著しく傷つけても、「ホラーストーリー」を書くこととするふとどき者を思いとどまらせるために。

クローン実験、

欧州議会で否決

10月28日付ストラスブルクで開かれた欧州議会で、ジェリー・ホール米国調査官の通報による人体クローン実験が議題となり、激しい非難の声と共に、遺伝子工学でこの実験を禁止すると可決された。同議会では又、緊急措置としてクローン実験の完全撤廃に関する世界会議の要請と、EC諸国における同種の遺伝子操作の阻止を呼びかけた。

フランシスコ会

ジノ・コンセッティ神父

十代に節制を

「自分をコントロールする方法を数える事は十代のセックスに影響を及ぼす」

私はボーイフレンドとの関係を長続きさせる最善の方法は性的関係を持たない事だと女性の患者に説きます。彼女達は親密な関係を望もうとするために、相手がセックスを必要とすれば、すすんで性的関係を結んでしまいます。しかし私の経験では、セックスに積極的な若いカップルのほとんどが破局を迎えています。

を持つているのですから。

私は彼女達にそうするように強く説得します。この説得がとても効果的なので、当の私でさえ驚くほどです。若者は具体的に述べてもらいたがっているので、激しいペッティング

は自分をコントロール出来なくなる危険がある事やどう対処すれば良いかなどについて具体的にアドバイスします。とても滑らかな会話になる事もありますが若者達は熱心に耳を傾けます。

私の主な目的は彼女らの自己防衛を手助けし、安全な方法で恋人との関係を継続させる事です。私は相手を怒らせないでセックスを回避する方法を女性に教えます。中にはボーイフレンドを連れてきて私と話をさせる女性もいます。説明を聞いて怒るような男性は一人もいません。私が話をする若者達の間では妊娠はめったに起

こりません。このように十代のセックスに取り組むには多少勇気が必要なのだと思えます。

避妊具が広く使われるようになっても、十代の妊娠率は下がっていません。自己をコントロールする方法を教えれば、その根本にある十代の性の問題に影響を及ぼす力がありません。十代に避妊について教えるのは矛盾しています。まるで息子にオートバイに乗る事を禁じておきながら、クリスマスプレゼントにヘルメットを与える父親のようなものです。

ピルやコンドームは避妊の効果がある物だと言われているけれど実際はそれほどではありません。自分の意志で婚前交渉をしないようにする事です。避妊はこの問題の結論とはなりません。

Womanity/Abstinence Works

ぼくの家族

こんにちわ！ぼくはリンゼー・ファサノ。養子に出された時は四ヶ月だったけれど、今は七才だ。養子の事はほとんど分かっていないけれど、分からない事があつたら、すばらしい両親に聞く事になっている。

と話してくれた。ぼくは何かしたいけど、今のところ良い考えはない。みんな人工妊娠中絶をする代わりに、子供達を養子施設に預ければいいと思う。だって、中絶は赤ちゃんだけではなく、自分自身も傷つける事になるのだから。

前に、「ぼくは養子なのは知っているけど、産んでくれたお母さんは誰？」って聞いた事がある。するとパパとママは、韓国では子供を産むと結婚しなくてはいけないのだけど、あなたを産んだお母さんは韓国の法律に従わなかったの。それで、あなたを養子に出したのよ。人工妊娠中絶も出来たのに。人工妊娠中絶ってというのは赤ちゃんを死なせてしまう事で、もしみんながこれが続けなければ、地球上に誰も残らなくなってしまうのよ。」

お母さんは料理と音楽と読み書きを教えてくれ、お父さんは物の組立て方を教えてくれた。叔母さんは掃除の仕方と正しい作法を、おばあさんはおばあさんみたいになる方法と絵のかきかたを教えてくれたし、おじいさんは鹿や熊の猟を教えてくれた。おいはプールでの飛び込みを教えてくれ、家族みんながぼくを愛してくれている。

ぼくは家族にとっても特別なんだ。みんなぼくに良くしてくれるし、ぼくもみんなに良くしているから、これからもずっとみんなぼくの事を愛する

し、ぼくもみんなの事を愛
する。ぼくたちはお互い平
等で、ぼくは他の誰かにな
りたくないなんて絶対思わな
い。だって、ぼくはぼくで
君は君なんだから。

Issues 9/1992